

エンド・オブ・ライフケアの 実践知を示すアプローチ

和泉成子(いずみしげこ)

End of Life Care

ターミナルケア 終末期ケア

- 病気の最終段階
- 医学的判断
- 治療法がない

エンド・オブ・ライフケア

- 生の終焉
- 当事者が感じ取る
- 自然な移行を支援する

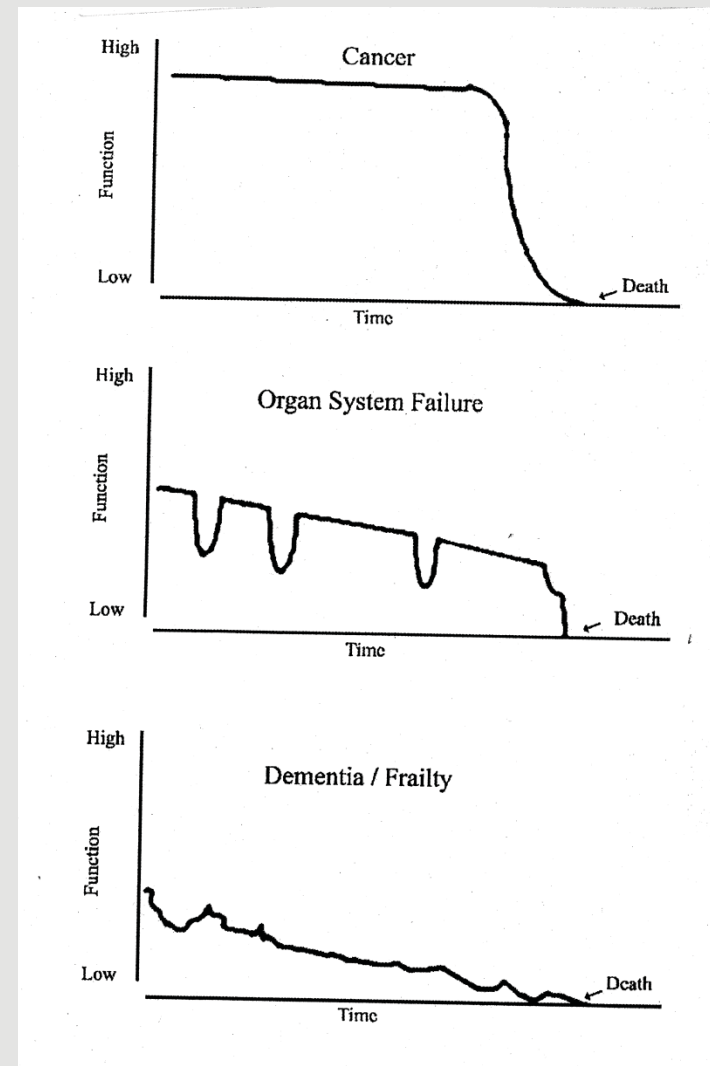
エンド・オブ・ライフケア 看護学

医学的診断名に関わらず、
生の終焉を迎える人々を看護学の
中心的価値である全人的ケアの
視点から理解し支援する

End of Life (EoL) Careに関する研究の方向性

1. 対象者の拡大

- 1) がん以外の疾患によるEoLも対象とする(慢性疾患・老衰・認知症、事故等を含む)
- 2) 発達段階に応じたエンドオブライフケアの検討(出産時・小児期・成人期・高齢者など)
- 3) 患者/家族・医療者・施設/地域/社会を対象とした取り組みの必要性



EoL Careに関する 研究の方向性(つづき)

2.効果的な支援技術の多角的な開発

1)効果的な症状緩和方法の開発(代替療法も含む) Practice-based evidence

2)患者/家族が必要としている支援を理解するための探索的研究

3)EoLの経過を理解するための縦断型・施設横断型研究

EoL Careに関する 研究の方向性(つづき)

3. EoL careの質向上のための医療システムの 構築

- 1)大規模・組織的データの収集・蓄積
- 2)施設・職種を越えた事前指示書・治療方針
等の共有の可能性

EoL Careに関する 研究の方向性(つづき)

4. EoL careの効果的な教育方法についての研究

- 1) スペシャリスト vs. ジェネラリスト
- 2) アセスメント能力の養成
- 3) 患者/家族とのコミュニケーション能力の
養成
- 4) 多職種間のコミュニケーション能力の養成
- 5) エンドオブライフについての社会的・文化
的理解と啓蒙(患者/家族/市民対象)

エンド・オブ・ライフケアの 実践知を示すアプローチ

和泉成子(いずみしげこ)
seiko.izumi@gmail.com